

休校時の家庭学習について

お子さまの家庭学習の支援

遠隔学習時における保護者の方々の責任

休校時は、以下の方法でお子さまの家庭学習を支援してあげてください。

- 日課および目標（期待される成果）を設定しましょう。
- 勉強に適したスペースを確保してあげてください。
- 教師からお子さまへの連絡を随時ご確認ください。
- 毎日、一日の始めと終わりに学習の進捗状況について尋ねましょう。
- お子さまの学習ニーズに対応し、積極的にサポートしてあげましょう。
- 積極的に体を動かすこと、または運動を奨励してください。
- お子さまはこの時期、いつもよりストレスまたは不安を感じている可能性があるということを理解してあげましょう。
- お子さまがどの程度インターネットで時間を費やしているかチェックしてください。
- 友人たちとの交流を妨げる必要はありませんが、ソーシャルメディアの使用については一定のルールを決めておきましょう。

遠隔学習時における児童・生徒の責任

児童・生徒が負うべき責任には以下のようなものがありますが、年齢や状況に応じて調整が必要な場合もあります。

- 学習のための日課を設定する／設定された日課に従う。
- 自宅内に用意された安全かつ快適かつ静かなスペースで勉強する。
- 定期的にオンラインの通知や掲示板等に注意を払い、教師からの告知やフィードバックを確認する。
- 最善を尽くして勉強に励み、与えられた課題に対して公正に取り組む。
- スケジュールに従い、義務を果たし、期限を守るべく最善を尽くす。
- 提出期限を守れない場合や、追加の支援が必要な場合には教師に連絡する。
- 級友と力を合わせ、サポートし合いながら学習する。
- 教育省の [Student use of digital devices and online services](#) (児童・生徒によるデジタルデバイスおよびオンラインサービス利用の方針) を遵守する。
- 状況やニーズに変化が生じた場合は、学校職員と適宜コミュニケーションを図る。

一日の計画

学校は、児童・生徒が家庭で学習するためのスケジュールまたは時間割を提供することになっています。このスケジュールには、定期的な休憩や飲食の時間も含まれます。休憩時には、できるだけ立ち上がり体を動かすことが奨励されています。

一戸建ての家にお住まいの場合は、庭やバルコニー、中庭に出ても安全です。

福祉

長期間にわたって自宅に閉じこもっていることは、ストレスや衝突の原因となる場合があります。自宅待機の期間中、以下のような方法でお子さまのストレスや不安を和らげることができます。

- 新型コロナウイルスの感染について、ご家族全員と話しましょう。状況を理解することで、不安が軽減される場合があります。
- 過去に起こった困難な事例やその対処法などを挙げて、今回の状況に対しても対処が可能であることを知らせてあげましょう。
- 隔離や自宅待機の期間はいつまでも続く訳ではないということを理解させてください。
- 定期的な運動を奨励しましょう。運動は、ストレスの緩和やうつ症状の改善に効果があることが実証されています。
- 電話やEメール、ソーシャルメディアなどを用いて親戚や友人と交流を保つよう奨励しましょう(適切な範囲内において)。

コミュニケーション

お子さまとのコミュニケーション

一日の始めと終わりには、家庭学習についていくつかの簡単な質問を試してみましょう。すべての児童・生徒が遠隔学習の環境で実力を発揮できるわけではありません。比較的自由的な環境に戸惑う子どもや、自分で計画を立てるのが苦手な子どももいます。定期的に質問を投げかけることによって、お子さまは自らの進捗状況を見直し、修正できる場合があります。

学校とのコミュニケーション

学校と教師による保護者の方々への連絡方法について把握し、定期的にご確認ください。

学校が遠隔学習計画の一環としてデジタルデバイスの使用を決定した場合は、教師への連絡方法およびテクニカルサポート担当者への連絡方法を把握しておきましょう。

今回の事態は、多くの学校およびご家庭にとって、これまでにない新たな状況をもたらしています。学校は、フィードバックに基づいて継続的にシステムや対応を改善および調整するよう努めておりますので、保護者の皆さまとお子さまに対してご意見をお願いする場合があります。

ほとんどの学校は、すでに何らかのコミュニケーション・プラットフォームを用いて保護者の方々や児童・生徒との連絡を行っています。可能な限り、こうした既存のプラットフォームは継続的に使用されることとなります。

教師とのコミュニケーション

教師は、オンラインで生徒とチャットできる時間や、ビデオで授業を配信する時間を設定する場合があります。また事情によりデジタルメディアが使用できない場合は、電話によるコミュニケーションの時間を設定する場合があります。

教師は多数の家庭や児童・生徒とコミュニケーションを行っています。このため、教師とのコミュニケーションは重要な内容のみに限定し、できるだけ簡潔に行うようお願いいたします。同様に、サポートまたはフィードバックも通常の授業のように迅速に提供できない場合がございます。お子さまにも理解してもらうよう、何卒ご協力お願い申し上げます。

テクノロジーの使用

特に学校から指定されない限り、現況への対応策として第三者からソフトウェアをお買いにならないよう、強くお勧めいたします。

学校および当省では、すでに幅広いソフトウェアおよびデバイスの利用が可能となっています。これらのソフトウェアおよびデバイスは、特に児童・生徒たちが必要とするサポートの提供を目的として選択されています。

- Google Apps for Education - Online Google apps.
児童・生徒は右記のポータルからアクセスできます：Students portal>Learning>G Suite
- Office 365 – online Office apps.
- Microsoft Office 365 Desktop Apps – コンピューター5台およびモバイルデバイス10台までインストールが可能です。‘Install Office’ のリンクを選択してください。
- 児童・生徒はBring your own device (BYOD) ソフトウェアのウェブサイトから、自らのデバイスで用いることのできる無料のAdobeソフトウェアにアクセスすることもできます。

デジタルデバイスおよびインターネットへのアクセス

テクノロジー、デバイスおよびインターネットに関する当省の方針は、下記のリンクからご覧いただけます。

[Student use of digital devices and online services policy](#) (児童・生徒によるデジタルデバイスおよびオンラインサービス利用の方針)

学習の一環としてお子さまがデジタル・デバイスまたはサービスを利用することが決定し、その使用方法がよく分からないという場合には、担任の先生にご相談ください。

スクリーンタイム (画面に向かう時間) の管理

インターネットに接する時間には限度があつて然るべきですが、推奨されるスクリーンタイムの長さやルールは年齢によっても異なります。

ビデオ会議やビデオを通しての社会的な交流は、スクリーンタイムには含まれません。

以下に推奨されたスクリーンタイム (ビデオ会議を除く) は、米國小児科学会の提案に基づいています。

- 2歳～5歳：計1時間 (30分以下のセッションに分割すること)
- 6歳以上：特にスクリーンタイムの制限は設けられていませんが身体活動および自宅や学校における人と人の交流 (許可されている場合) に影響を及ぼさないよう注意が必要です。保護者自身のスクリーンタイム制限と矛盾していないことが大変重要です。

家庭学習に関係のない活動については時間を制限するよう努めてください。

行動の管理

たとえ自宅にいても、児童・生徒は学校の行動管理の方針を遵守する必要があります。

遠隔学習の間、児童・生徒はインターネットなどを介して他の児童・生徒とコミュニケーションをとり、共同研究やグループワーク、ピア・フィードバックなどを行うことが求められる場合があります。遠隔学習の間も児童・生徒には、対面で行う授業と同様の態度で学ぶことが期待・要求されています。

電話通訳サービス

さらに詳しい情報をご希望の方は学校長まで直接お問い合わせください。お電話の際に通訳をご必要とされる方は、電話通訳サービス (TEL: 131 450) までおかけになり、日本語の通訳をご指定ください。このサービスは無料でご利用いただけます。